

授業の何を見えていますか

授業をよくするために最も勉強になるのは、授業をすることです。

それも丹念に準備をし、怖いと思う先輩教師などに見られ、緊張する中で、授業することです。

昔、「研究授業は『普段』の授業ではないから力にならないと」いった方がいましたが、それは間違っています。

その方の「普段」の授業とやらのレベルがひどすぎるのでしょう。誠実な教師は、研究授業並みの授業を「普段」でもしようと努力するものです。

また、授業後行われる検討会も重要です。

苦言にこそ耳を傾けることが大事です。

完璧な授業などあり得ないのです。

足りないところを指摘してくださる方の言葉をどれだけ真摯に受け止められるかが問題です。

いわば素直さが、教師としての成長を助けるのでしょう。

私は未だに検討会で批判されると、「いいわけ」やら「反論」やらが頭を渦巻いてきます。

まったく未熟です。

検討会でだらだらと言いつける教師は、本当に醜いなあと思います。

授業は事実がすべてなのです。

本来言い訳できません。

だから、授業することが力になるのです。

少しばかり賢い教師は、言葉で逃げ道を探しますが、その賢さが自分の成長のじゃまをしていることに気がつかないのですね。

ところで、授業を見るときもそうです。

私は指標としてこんなことを考えます。

「授業が下手だなあとと思ったら、自分とほぼ同じレベル」

「普通の授業だなあとと思ったら、自分より相当上手い」

「授業が上手だなあとと思ったら、手の届かない範囲」

なぜかという、私は授業を観る目がないからです。

授業を見る目がないと、あれども見えずで、いいところを少なめに見積もるのです。